



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	自律的に学ぶ学習者の育成を目指した英語授業モデルの開発：プログレスカードを用いた授業実践(fulltext)
Author(s)	臼倉,美里
Citation	英學論考(43): 39-57
Issue Date	2014-12-01
URL	http://hdl.handle.net/2309/137736
Publisher	東京学芸大学英語合同研究室
Rights	

自律的に学ぶ学習者の育成を目指した英語授業モデルの開発 ープログレスカードを用いた授業実践ー

白倉 美里

1. はじめに

平成23年度から小中高と順次施行された新学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」をより一層育むことを基本方針に掲げ、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の「知・徳・体」をバランスよく育てることが大切であると謳っている。知識基盤社会の到来やグローバル化の進展により、与えられた情報を効率よく処理する能力だけでなく、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を創造する能力が求められており、そのためには、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力（クリティカル・シンキング）、様々な情報を取捨選択できる力の育成が不可欠である。本研究は、このような能力を備えた、自律的に学ぶ学習者の育成のための英語指導モデルの構築を目指した研究（高田，2013）の一端を担うもので、中学校と高校それぞれの授業実践例を報告し、併せて生徒の自律意識を調べたアンケート調査の結果を分析・考察するものである。

2. 研究の背景

2. 1 学習者自律

本研究では学習者自律を“the ability to take charge of one’s own learning (Holec, 1985a)” および “capacity – for detachment, critical reflection, decision-making, and independent action (Little, 1991)”と定義づける。さらに、欧州言語共通参照枠（通称 CEFR, Council of Europe, 2001）が目指す自律の理念に寄せて、学習者が他者の助けを得て、一人では成し遂げられなかったものを成し遂げられるようになるという、社会文化理論(Vygotsky, 1978)を背景にした相互依存的側面も含んでおり、自律的に学ぶ学習者を育てるためには、授業中に生徒同士が学び合う機

会を設けることが不可欠だと考える。

また、Littlewood(1991)は学校教育（特にアジア圏）における学習者の自律には、学習の目標設定から内省までの一連の学習過程を自分で管理統制する従来のタイプの自律（proactive autonomy）以外にも、例えば授業などで教師が設定した学習目標の達成を目指して、自分で学習の段取りを考えたり、場合によってはグループで協力して取り組む道を選択したりするといったタイプの自律（reactive autonomy）があり、特に学校教育の現場では、proactive autonomy 育成の素地としての reactive autonomy の育成も無視できないとしている。本研究で紹介する授業実践においても、最終目標である proactive autonomy の育成に至る過程として、授業中の活動や教師の働きかけを通しての reactive autonomy 形成にも注目した内容となっている。

2. 2 ポートフォリオ的アプローチとプログレスカード

自律的に学ぶ学習者を育てるための授業実践の一つに「ポートフォリオ的アプローチ(portfolio-oriented approach, (Kohonen 2001, 2006))」がある。これは、社会的文脈の中で学習者の自律とコミュニケーション能力を育成する方法で、ELP(European Language Portfolio)プロジェクトの一環としてフィンランドで開発された。このアプローチに基づいた指導では、学習プロセスに焦点を当て、教師の支援を受けながら生徒が自分の学習に責任を持てるようになるために、学習の見通し（到達目標）を立て、その目標を達成するための活動を行い、自分の学習を振り返る、という手順を踏む。Little, Hodel, Kohonen, Meijer, and Perclova (2007) では、自律を促すために教師がすべきこととして、(1) 学習の目的と過程について当事者意識を持たせる、(2) 学習と言語について内省させる、(3) 目標言語を使わせる、の3つを挙げている。これをもとに本研究では、授業を通して自律を育てるための3つの柱を以下のように設定した。

- (1) 見通しを立てる：教師と生徒が授業の目標を共有する
- (2) 言語活動：目標達成のための言語活動を行う
- (3) 振り返り：目標達成の評価と学習の振り返りを行う

この3つの柱を備えた授業を実現するためのツールとして、本研究で紹介する授業実践例では「プログレスカード（松沢，2002）」を用いた。プログレスカ

ードには、①単元の到達目標（Can-do 形式）、②言語技能、③言語知識、④毎回の授業の振り返り記入欄、⑤単元終了時の振り返り記入欄が含まれており、このうち①～③が学習の見通しを立てるための項目で、④と⑤が学習の振り返りのための項目である。

本研究で紹介する授業実践では、プログレスカード（下記図1～図3）を用いて、自律の3つの柱のうち、「(1) 見通しを立てる」と「(3) 振り返り」を特に意識した授業が展開される。さらに、生徒が学習により意識的に取り組むことができるように、プログレスカードに、教師が設定した各課の到達目標に加えて、生徒自身が「自分の目標」を記入する欄を設けている。このようにすることで、生徒に自分自身の学習の見通しを意識させ、学習に対する当事者意識を持たせることができると考える。また、プログレスカードには毎時間の振り返りを記入する欄も設けられていることから、振り返りの習慣化にもつながる。これに関して、中学校での実践において、生徒自身が振り返りをしやすくするために、毎時間の振り返りを記入する欄をプログレスカードから独立させ、「振り返りシート（下記図2）」として活用した。

次の章では、プログレスカード（振り返りシート含む）を活用した、自律を育てるための3つの柱に沿った授業モデルを紹介する。

3. 授業実践

3. 1 授業実践者および授業実践校の生徒の様子

本研究では授業実践者として2名の先生にご協力いただいた（以下、A 教諭、B 教諭）。

- ・A 教諭：私立の中高一貫校勤務。教歴2年目。中学校1年生担当。担当クラスには基本的な学習習慣が確立されていない生徒も少なからずおり、生徒たちの英語学習に対するモチベーションは必ずしも高いとは言えない。ただし、教師の働きかけには素直に従う生徒がほとんどである。
- ・B 教諭：都立高校勤務。教歴5年目。高校2年生担当。担当クラスには英語学習に苦手意識を持っている生徒が多いが、教師の指示にはしっかり耳を傾け、活動などは積極的に行う。

図1：中学校版プログレスカード

Progress Card

～英語力をぐんぐん伸ばそう!!～

Lesson6 My Family in the UK

J1 No. Name

Goals 人の紹介を聞いて、理解することができる。

[Lesson6の目標] 自分の家族や好きな人を8文程度で詳しく紹介することができる。

A: よくできた

B: できた

C: あと少しででき

★身に付けよう!!英語の4技能★

技能	目指す具体的な姿	自己評価の仕方	自己評価	総合評価
L	①GET1~3の Listen を聞いて、理解できる。	①GET1~3の聞き取り ②メモを取る	①	
	②発表者の人の紹介を聞いて、理解できる。		②	
R	ある有名人の10文程度の紹介文を読み、理解できる。	プリント		
W	自分の家族や好きな人を詳しく紹介するために、原稿を書く。	①1回目の原稿	①	
		②2回目の原稿	②	
S	自分の家族や好きな人を詳しく紹介する。	①ペアで発表し合う。	①	
		②発表	②	

★身に付けよう!!英語の知識★

知識	目指す具体的な姿	自己評価の仕方	自己評価	総合評価
文法	第三者の人物について表現するときの表現の仕方、疑問文の作り方を理解し、使える。	GET1~3		
語彙	様々な動作、音楽・スポーツに関する単語を日本語⇄英語に直せる。	確認(リスニング)テスト、 朝テストで合格する。		
発音	①英語らしく発表できる。 ②CDのように本文を見ないで英文を言える。	①聞き手に伝わっているか。	①	
		②音読カード、ペアで音読テスト	②	

使用教科書：New Crown English Series Book 1 (三省堂)

図2：振り返りシート（中学校で使用）

振り返りシート						No. 1		
11 No. Name								
★Check★			★評価方法★					
① 先生の話や指示をよく聞いた。			◎ よくできた					
② 音読練習など、大きな声で英語を読めた。			○ できた					
③ 手を挙げて発言できた。			● もう少しがんばればできた					
④ 授業に集中できた。			△ 全くできなかった					
⑤ 3秒ルールに取り組めた。								
日付	①	②	③	④	⑤	今日の授業で わかったこと	反省すること	次の授業で がんばること
5/1	●	◎	○	●	○	自己紹介するときの出身地の伝え方がわかった。	fromの発音に自信がなく、小さな声になってしまった。	間違えても良いから大きな声を出す！
6/5								
6/6								
6/16								
6/17								
6/19								
6/20								
From: Ms. Tomimizu ☺								

Self-Evaluation Sheet

Lesson 2 New Year's Celebrations

class _____ name _____

GOAL

自分が正月にすることを3文以上で書くことができる

自分の目標:

英語の知識	到達度	全体の感想
文法 教科書のGrammar(SVOO,It seems that~)を理解し、TRY!を解くことができる。	☆ ☆ ☆	(自分が頑張ったこと、もっと頑張りたいこと、楽しかった活動 など)
語彙 Flash Cardの単語を日本語→英語、英語→日本語に直すことができる。	☆ ☆ ☆	
音読 CDのように、すらすら音読できる。	☆ ☆ ☆	

Study Skill (A, B, C で評価)			
観点	①	授業に集中して取り組んだ。	
	②	ペアワーク等、活動には積極的に参加した。	
	③	積極的に発言した。	

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

Date				Today's Lesson:
観点	①	②	③	感想・反省
評価				

3. 2 中学校における授業実践

各課の初回の授業は、プログレスカードを使って課全体の目標を確認・共有することから始まる。その後、生徒各自が「自分の目標」をプログレスカードに記入する。毎回の授業は基本的に以下のような流れで進む。

予習	教科書のリスニング：教科書を閉じたまま CD を聞いて、聞き取れたことを日本語でノートに書いてくる
1	Warming-up and Review (“Question-Game”)：先生が英語で質問をして、答えられた人から着席する。全員が着席するまで行う
2	本時の目標の確認
3	新文法事項の導入： 教科書に掲載されているリスニングタスクを使ったり、教員が物やジェスチャーを使って新文法事項を含んだ英文を聞かせたりして理解を促す。その後ノートに文法解説をまとめる。
4	新文法事項の練習： 口頭練習、教科書準拠のワークブック、教師による自作プリントを使って言語活動を行う。
5	教科書のリスニング： 聞き取れたことを日本語で生徒に発表させ、それを黒板にリストアップする。生徒が聞き取れなかった箇所等重要な部分（理解してほしい箇所）については、教師から問いかけて内容を確認する。
6	音読、レセテーション活動
7	教科書本文をノートに写す
8	「振り返りシート」の記入
各課 終了時	まとめの言語活動： (1) リスニング活動＋再生（聞いて理解したことを声に出して言う） (2) リーディング活動＋再生（読んで理解したことを声に出して言う） (3) ライティング活動：各レッスンで学んだ学習項目を使ったライティング活動で、「自己紹介」「なりきり自己紹介」「家族や友達の紹介」といったトピック

クで、「〇文以上」という条件を設定する

- (4) スピーキング活動：各レッスンで学んだ表現を使ったスピーキング活動で、例えば How many の表現を学んだレッスンの最後に、「クラスで一番たくさん漫画を持っている人を探そう」というトピックのもと、クラスメイトと英語で会話する

「プログレスカード」の記入：

課全体の学習を振り返って自己評価（到達目標および自分の目標の達成度を評価）と感想を記入する

授業者（教諭 A）は生徒の様子について、ペアワークなどで英語を使ってお互いについての情報交換をする活動に特に熱心に参加しているというコメントを寄せている。また、Warming-up and Review で行っている Question Game についても反応が良いことから、英語を使って実際にコミュニケーションする機会を授業中にできるだけ多く設けることが、授業への積極的な参加につながる。

毎時間終了時に記入する「振り返りシート」には、学期当初は授業に対する感想を書く生徒が多かったが、徐々に授業中に学んだ内容についてのコメントが増えてきて、メタ言語的な振り返りへと移行している様子がうかがえた。

3. 3 高校における授業実践

各課の初回の授業は、プログレスカードを使って課全体の目標を確認・共有することから始まる。その後、生徒各自が「自分の目標」をプログレスカードに記入する。毎回の授業は基本的に以下のような流れで進む。

予習	予習プリント：新出語句の意味確認，本文の穴埋め和訳
1	Oral Introduction
2	新出単語の確認
3	本文の内容確認（予習プリントの答え合わせ）
4	Q & A 活動（英問英答）

①個人で解答

	②4人グループでお互いに確認
	③クラス全体で答え合わせ
5	音読活動（2～3回程度）
6	穴埋め Summary
7	Grammar Exercise（センテンスハント→問題演習） ※センテンスハント：教師が読み上げた英文を教科書の中から見つける活動
8	「プログレスカード」の記入（毎時間の振り返り）
	Let's Try!（ライティング活動）
各課 終了時	<ul style="list-style-type: none"> ・各 Lesson 終了後に実施 ・クラスでお互いのアイデアをシェア ・台紙に貼り保存
	「プログレスカード」の記入（各課全体の振り返り）

授業者（教諭 B）からは、各課の冒頭でプログレスカードを使って目標を確認することで、生徒たちはより意識的に学習に取り組むようになったというコメントが寄せられている。また、どの生徒もグループ活動（本文の内容を確認する Q&A 活動）には特に積極的に取り組んでおり、その活動中には、英語ができる生徒ができない生徒を助けてあげるなど、学び合いの様子が見られた。

プログレスカードに記入された毎時間の振り返り欄には、その時間に自分が頑張ったことや、逆にできなかったこと、教科書の内容についてのコメントなどが書かれていた。さらに、生徒が書いた振り返りに対して教師がひとことコメントを書いて返却することで、プログレスカードが生徒と教師のコミュニケーションの場としても機能していた。

4. アンケート調査

ここまでで紹介した授業実践を通して、生徒の自律意識がどのように育まれているかを調べるために、アンケート調査を行った。本研究と同様に、自律の育成を目指した授業実践を行った先行研究（Little, Ridely, Ushioda, 2002）で使用されたアンケート（英語版）を元に日本語版を作成した。アンケートは3つのパートで構成されており、Part 1 では生徒の英語学習に対する意識を、Part 2 で

は実際の学習行動を、そして Part 3 では英語学習へのモチベーションをたずねている（付録参照）。

4. 1 調査手順

授業実践を行った 2 人の教師が担当するクラスで、1 学期末にアンケートを実施した。回答者数は中学校が 58 名、高校が 115 名だった。

4. 2 結果と考察

以下、パートごとに結果を示し考察する。

Part 1 英語学習に対する意識

(5: 強くそう思う～1: まったくそう思わない) ※表内数値は平均値 (SD)

項目	中学 (58 人)	高校 (115 人)
1. 外国語の勉強は難しい。	3.57 (1.19)	4.05 (0.97)
2. 先生が授業中にできるだけ多く英語で話してくれると、英語の勉強に役立つ。	3.40 (1.04)	3.15 (1.03)
3. 間違った英語を話すくらいだったら、話さない方が良い。	2.60 (1.30)	2.95 (1.09)
4. 英語学習でもっとも大切なのは、文法だ。	3.07 (1.06)	3.23 (0.97)
5. 英語を聞いたり話したりするよりも、読んだり書いたりする方がより簡単だ。	2.97 (1.34)	3.11 (1.14)
6. 英語は他の科目よりも難しい。	3.52 (1.30)	3.58 (1.22)
7. 英語を勉強するには、とても頭がよくなければならない。	2.57 (1.14)	2.74 (1.05)
8. 知性 (=頭の良さ) というものは、生まれ持って身につけているものなので、変えられない。	2.40 (1.36)	2.38 (1.12)

9. 英語がうまくなるには、授業外にも自分で勉強する必要がある。	3.88 (1.01)	4.02 (0.78)
----------------------------------	----------------	----------------

質問1(「外国語の勉強は難しい」と質問6(「英語は他の科目よりも難しい」)に対する回答の平均値が3~4となっていることから、英語学習に対する苦手意識がうかがえる。その一方で、英語が使えるようになるには、授業外でも自主的に勉強する必要があるという意識は高いことがわかる(質問9への回答参照)。では生徒たちの実際の学習行動はどうだろうか。

Part 2 実際の学習行動

(5: いつもやる ~ 1: 一度もやったことがない) ※表内数値は平均値 (SD)

項目	中学 (58人)	高校 (115人)
1. 授業で学んだ内容を、自分なりに振り返っている。	3.05 (0.96)	2.39 (0.82)
2. 授業中に先生がクラス全体に対して質問を投げかけたとき、自分が指名されていないときでも、答えを考えようとしている。	3.36 (1.05)	2.96 (1.01)
3. 授業中にわからないことがあったら、友達や先生に聞く。	3.26 (1.04)	3.09 (1.04)
4. 英語の単語でわからないものがあつたら、意味を調べるようにしている。	3.19 (1.15)	3.20 (1.07)
5. 新しく学んだ単語は、忘れないようにノートに書きとめている。	3.00 (1.22)	2.92 (1.13)
6. 英語の宿題はきちんとやるように努力している。	3.74 (0.97)	3.85 (0.98)
7. 提出した宿題が返却されたときは、間違った箇所や先生からのコメントをよく見るようにしている。	3.33 (1.13)	2.88 (1.10)
8. 先生から指示があつたときは、授業中にできるだけ英語を使うようにしている。	3.27 (1.11)	2.68 (0.90)
9. 役に立つと思う単語や表現などは、先生に言われなくても暗記するようにしている。	3.31	2.50

	(1.17)	(0.95)
10. 授業外でも、英語に触れる機会を持つようにしている。	2.64 (1.18)	2.48 (1.25)
11. 発音をよくしたり英語の表現を覚えるために、授業外でも音読をしている。	2.47 (1.10)	2.02 (0.86)
12. 英語を聞くとき、読むときは全部わからなくても大事なところだけを拾って意味を理解しようとしている。	3.26 (1.10)	3.17 (0.99)

Part 2 のアンケート結果では、授業に関する取り組みと授業外の学習への取り組みの様子がわかる。まず、授業に関する取り組みの一つとして、宿題をしっかりやるように努力しているかをたずねた質問6に対する回答を見ると、平均値が4前後(中学3.74, 高校3.85)となっていることから、今回調査対象とした生徒たちは、教師から指示された宿題にはおおむね真面目に取り組んでいる様子がうかがえる。その一方で、指示されたこと以外に自主的に英語学習を行っているかについては、質問9、質問10、質問11に対する回答の平均値がほぼすべて2点台であることから、あまり行われていないと言える。アンケートのPart 1の質問9(「英語がうまくなるには、授業外にも自分で勉強する必要がある。」)に対する回答から、生徒たちは英語が使えるようになるためには、授業外でも自主的に努力を重ねる必要があることは認識しているようであるが、Part 2の回答を見ると、具体的な学習行動には未だ結びついていないようだ。自律した学習者になるためには、教師から言われたことをこなすだけでなく、自ら課題を見つけ、それを克服するために学習の計画を立てて行動し、その成果を内省できるようにならなければならない。そのためには、授業中の学習内容と家庭学習を関連させたり、生徒個人のレベルに合わせた助言をするなどして、学習方法についてのヒントを与えていく必要がある。

次のセクションでは、調査対象者の英語学習に対するモチベーションを考察する。

Part 3 英語学習へのモチベーション（あてはまるものに○。複数回答可）

※表内数値は人数（％）

項目	中学校	高校
1. 外国語が話せたらすばらしいと思う。	50 (96.2%)	98 (85.2%)
2. 海外に行ったときなどに、他の人が言っていることがわかるようになるために、英語を勉強している。	34 (58.6%)	43 (37.4%)
3. 英語の勉強が好きだ。	21 (36.2%)	26 (22.6%)
4. 英語の発音がうまくなりたい。	35 (60.3%)	63 (54.8%)
5. カッコいいところを見せたいので、英語で話せるようになりたい。	14 (24.1%)	24 (20.9%)
6. 英語で話すのは楽しい。	19 (32.8%)	17 (14.8%)
7. 「友達同士でコミュニケーションをとるときに英語を使えば、まわりの人にはわからないので便利だ」という理由で英語を勉強したい。	19 (32.8%)	7 (6.1%)
8. 英語を勉強しなくてすめばいいのに、と思う。	14 10 (24.1%)	47 37 (40.9%)
9. 親からは英語の学習をがんばれと言われている。	39 (67.2%)	39 (33.9%)
10. 外国の人と友達になりたいので、そのために英語の勉強は役に立つと思う。	24 (41.4%)	35 (30.4%)

中学校の生徒も高校の生徒も「英語を話せるようになりたい（項目1）」「発音がうまくなりたい（項目4）」という思いは強い。しかし、英語の勉強は好きではなく（項目3）、勉強しなくてすめばいいのにと思っている（項目8）。この結果から、生徒たちには「英語が使えるようになりたい」という気持ちはあるが、学校での英語学習については、まだ十分な達成感あるいは充実感を持って

ていない可能性がうかがえる。先行研究 (Little, Ridely, Ushioda, 2002)でも、同様の結果が出ており、英語学習に対してネガティブな回答をしている学習者が、常にモチベーションが低いというわけではなく、授業中の特定の学習活動に対して苦手意識を持っているために、アンケートに対する回答がネガティブなものになった可能性があるとして述べている。そしてそれを実証するために、項目8に○をつけた学習者の回答を分析したところ、ほとんどの学習者が英語学習に対するポジティブな項目にも○をつけていることがわかった。このことから、「英語を勉強したくない」という学習者の回答が、英語学習 (例えば授業) のある一面のみを捉えての意見であり、必ずしも英語学習全体についての意見ではない可能性が示唆された。今回のアンケート調査結果について同様の分析を行ったところ、先行研究と同じような結果が得られた。項目8に○をつけた学習者の7~8割が、項目1にも○をつけていた。

5. 授業モデルの今後の課題

本研究で紹介した自律を支える3つの柱に沿った授業実践例について、授業担当者のコメントとアンケート調査を通して、授業改善に向けての今後の課題が見えてきた。

(1) 言語活動のさらなる充実

中学校・高校に共通して言えるのは、言語活動のさらなる充実である。実際に英語を使ってコミュニケーションができたという成功体験を授業中に積み重ねることが、英語学習に対する生徒の自律意識を育てることにつながる。英語は自分にとって「できない」ものではなく、「できる」ことであると実感させるためにも、段階的なスピーキング活動やライティング活動を多く取り入れる必要がある。また、特に高校では、教科書の内容理解にかける時間を短縮するか、日本語に頼りすぎない内容理解を行うことで、生徒が英語に触れる機会や、英語を使う機会を増やすことができる。具体的には、予習プリントの穴埋め和訳問題を、英語サマリーや Graphic organizer (本文の内容を図式化して示したワークシート) の穴埋めに置き換えたりする方法が挙げられる。

(2) 学び合いの機会の充実

上に挙げた言語活動の充実に関連して、そういった活動をペアやグループで行

う機会を増やしていく必要がある。例えば、個人が書いたライティングの原稿を、ペアになってお互いに読みあってコメントし、その後再び自分が書いた原稿を書き直すといった活動が挙げられる。このような活動を通して、一人では成し遂げられなかったことを、友人と協力し合うことで成し遂げることができたという経験をするのもまた、自律意識の育成につながる。

6. おわりに

本研究では、自律した学習者の育成を目指した授業モデルの一例として、中学校と高校における授業実践例を提案した。授業の骨格を担うのは、「見通しを立てる、目標を達成するための言語活動を行う、学習を振り返る」という、自律を支える3つの柱である。また、3つの柱の実現のために、プログレスカードを取り入れ、生徒たちが授業の目標を意識し、積極的に活動に取り組み、さらには自身の学習を振り返って次へとつなげていくことを目指した。本研究で対象とした学習者は、授業実践開始時には、決して英語学習に対するモチベーションが高いとは言えなかった。そのような中、約一学期間の授業実践を経て、生徒の自律意識がどの程度育まれたかをアンケートにより調査したところ、英語が使えるようになりたいというモチベーションはあるが、それがまだ自主的な学習には結びついていないことがわかった。今後の課題としては、授業内外で英語を使う機会を増やし、生徒同士の学び合いを通して、英語学習の成功体験を積み重ねて行くための工夫が挙げられる。学習者が自律するまでには時間がかかるが、日々の授業の中で、繰り返しこのような体験をさせていくことが、自律への第一歩になる。

謝辞

本実践は科学研究費補助金(基盤研究(B))研究課題番号 23320117 の援助を受けて行われた。また、本研究の授業実践者として枝廣真弓先生、富水美佳先生に、研究助言者として緑川日出子先生に多大なご協力いただいた。厚く謝意を表したい。

参考文献

- Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Holec, H. (1985a). On autonomy: Some elementary concepts. In P. Riley (ed.) *Discourse and Learning*. London: Longman, 173-190.
- Kohonen, V. (2001). Developing the European Language Portfolio as a pedagogical instrument for advancing students autonomy. In L. Karlsson, F. Kjusik & J. Nordlund (Eds.), *All together now: Papers from the Nordic conference on autonomous language learning* (p.20-44). Helsinki: University of Helsinki Language Center.
- Kohonen, V. (2006). Student autonomy and the European language portfolio: Evaluating the Finnish pilot project (1998-2001). Paper given at the Canadian conference on developing autonomy in the classroom.
- Little, D. (1991). *Learner autonomy: definitions, issues and problems*. Dublin: Authentik.
- Little, D., Hodel, H., Kohonen, V., Meijer, V., & Perclova, R. (2007). *Preparing teachers to use the European Language Portfolio – Arguments, materials and resources*. European Center for Modern Languages.
- Little, D., Ridley, J., & Ushioda, E. (2002). *Towards greater learner autonomy in the foreign language classroom*. Dublin: Authentik.
- Littlewood, W. (1999). Defining and Developing Autonomy in East Asian Context. *Applied Linguistics, 20-1*: pp.71-94. Oxford: Oxford University Press.
- Vygotsky, L.S. (1978) *Mind in Society: the Development of Higher Psychological Processes*. Boston, MA: Harvard University Press.
- 高田知子. (2013). 「ポートフォリオ的アプローチによる未来指向型英語指導モデルの構築」 基盤研究 (B) 23320117. 中間報告書.
- 松沢伸二. (2002). 『英語教師のための新しい評価法』 東京: 大修館書店

付録

自律アンケート

英語アンケート

実施日 _____ Class No. _____ Name _____

◆Part 1◆

外国語（英語）学習についてのあなたの考えに関する質問です。それぞれの項目について、1～5の基準に基づいて判断し、もっともあてはまる数字 1 に○をつけてください。

基準

1：まったくそう思わない 2：そう思わない 3：どちらでもない 4：そう思う 5：強くそう思う

1. 外国語の勉強は難しい。	1	2	3	4	5
2. 先生が授業中にできるだけ多く英語で話してくれると、英語の勉強に役立つ。	1	2	3	4	5
3. 間違った英語を話すくらいだったら、話さない方がよい。	1	2	3	4	5
4. 英語学習でもっとも大切なのは、文法だ。	1	2	3	4	5
5. 英語を聞いたり話したりするよりも、読んだり書いたりする方がより簡単だ。	1	2	3	4	5
6. 英語は他の科目よりも難しい。	1	2	3	4	5
7. 英語を勉強するには、とても頭がよくなければならない。	1	2	3	4	5
8. 知性（＝頭の良さ）というものは、生まれ持って身につけているものなので、変えられない。	1	2	3	4	5
9. 英語がうまくなるには、授業外にも自分で勉強する必要がある。	1	2	3	4	5

◆Part 2◆

あなた自身の英語学習に関する質問です。以下のそれぞれの項目について、1～5の基準に基づいて判断し、もっともあてはまる数字 1 つに○をつけてください。

1: 一度もやったことがない 2: ほとんどやらぬ 3: ときどきやる 4: よくやる 5: いつもやる

1. 授業で学んだ内容を、自分なりに振り返っている。	1	2	3	4	5
2. 授業中に先生がクラス全体に対して質問を投げかけたとき、自分が指名されていないときでも、答えを考えようとしている。	1	2	3	4	5
3. 授業中にわからないことがあったら、友達や先生に聞く。	1	2	3	4	5
4. 英語の単語でわからないものがあつたら、意味を調べるようにしている。	1	2	3	4	5
5. 新しく学んだ単語は、忘れないようにノートに書きとめている。	1	2	3	4	5
6. 英語の宿題はきちんとやるように努力している。	1	2	3	4	5
7. 提出した宿題が返却されたときは、間違った箇所や先生からのコメントをよく見るようにしている。	1	2	3	4	5
8. 先生から指示があつたときは、授業中にできるだけ英語を使うようにしている。	1	2	3	4	5
9. 役に立つと思う単語や表現などは、先生に言われなくても暗記するようにしている。	1	2	3	4	5
10. 授業外でも、英語に触れる機会を持つようにしている。 (例: 英語のテレビ番組を見る、洋画を見る、インターネットで英語のサイトを見る)	1	2	3	4	5
11. 発音をよくしたり英語の表現を覚えるために、授業外でも音読をしている。	1	2	3	4	5
12. 英語を聞くとき、聴くときは全部わからなくても大事などころだけを拾って意味を理解しようとしている。	1	2	3	4	5

◆Part 3◆

あなたが英語を勉強したいと思う理由について、以下のそれぞれの項目のうち、あなた自身に当てはまるものに○をつけてください。

項目	チェック欄 (当てはまるものに ○をつける)
1. 外国語が話せたらすばらしいと思う。	
2. 海外に行ったときなどに、他の人が言っていることがわかるようになるために、英語を勉強している。	
3. 英語の勉強が好きだ。	
4. 英語の発音がうまくなりたい。	
5. カッコいいところを見せたいので、英語で話せるようになりたい。	
6. 英語で話すのは楽しい。	
7. 「友達同士でコミュニケーションをとるときに英語を使えば、まわりの人にはわからないので便利だ」という理由で英語を勉強したい。	
8. 英語を勉強しなくてすめばいいのに、と思う。	
9. 親からは英語の学習をがんばれと言われてる。	
10. 外国の人と友達になりたいので、そのために英語の勉強は役に立つと思う。	

◎他にも理由がある場合は、下の欄に書いてください。

白倉美里（東京学芸大学 講師）